

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380213

研究課題名(和文) アジアにおける「中国的ODA」の展開と資源外交

研究課題名(英文) Chinese-style ODA and its Natural Resource Diplomacy in Asia

研究代表者

李 恩民 (LI, ENMIN)

桜美林大学・人文学系・教授

研究者番号：90372911

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は政治学・歴史学・社会学に跨る学際的視点から、「中国的ODA」について現地調査のデータを基に総合的に考察したものである。大量の一次資料を活用した上で、フィールドワークの重点をレシピエント(被援助地域)に置き、ベトナム、タイ、モンゴル、ミャンマー、マレーシア、インドネシアなどで、個々の被援助プロジェクトについて実態調査し、現地住民や学者へのヒヤリングなども行った。調査は中国が援助したプロジェクトであるモノレール、高速鉄道、橋、道路、病院、体育館、シアター、学校、文化交流センターなど各分野に及んだ。調査研究の成果について、招聘講演、国際シンポジウム、学会などで、中・英・日本語で発表している。

研究成果の概要(英文)：Official Development Assistance (ODA) is aid from a developed country to a developing country. Although China has been receiving ODA from Japan and other countries, as the largest developing country it has also given foreign aid to other developing countries. This kind of Chinese foreign aid is referred to as Chinese-style ODA in this research. This research aims to clarify the social and economic background of various projects carried out in Chinese-style ODA. It is based on fieldwork conducted in recipient countries including Thailand, Vietnam, Mongolia, Myanmar, Indonesia and Malaysia. Our fieldwork investigated symbolic and landmark projects, as well as general infrastructure projects such as hospitals and schools. This research shows that China ingeniously has been using aid as a bridge to strengthen its diplomatic ties with Asian countries and to establish business contacts. The Chinese-style ODA is a politically expedient mechanism to meet China's essential energy needs.

研究分野：歴史学

キーワード：中国的ODA 対外援助 資源外交 Chinese-style ODA resources dealings resource development
Foreign Aid Resource Diplomacy

1. 研究開始当初の背景

(1)【理論探求の必要性】一般的に言えば、政府開発援助 (ODA) を中心とする対外援助とは専ら先進国から開発途上国への開発援助を意味するものであるが、中国は 1949 年の建国より、国際地位の向上を最優先課題とし、「発展途上国としての対外援助」を外交手段の一つとして駆使し、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ・太平洋諸国に「対外援助」を実施、国連常任理事国への就任など多数の戦略的目標が達成できた。これは明らかに従来の ODA 理論で説明しきれない外交行為で、新しい政治理論で分析しなければならない現象である。本研究が初めて名付けた「中国的 ODA」は過去の事例に基づく新しい理論を探求する一つの試みである。

(2)【社会発信の必要性】 中国経済の高度成長、発展途上諸国における資源外交の全面的展開、沿海地域における海洋調査活動の活発化などによって、中国の対外援助外交、特にアフリカ大陸と東南アジア諸国に対する援助外交は注目の的となり、学術研究やジャーナリスト報道のホット・トピックにもなった。そのなかで、地道な努力に基づき世に問うすばらしい研究成果もあれば、中国の外交手腕を「新植民地主義 (neocolonialism)」として非難する報道と論評もある。現地の産業に致命的な打撃、資源の略奪、自然環境の破壊、現地住民の対中感情悪化、資源確保に走る中国、アフリカに食い込む中国、海外軍事プレゼンスの始動と拡大などの言葉はよく使われる。果たして資源にも乏しい中国がエネルギーを安定的かつ持続的に確保するために、アジア外交をどのように戦略的に展開していたのか？ 資源外交はどのように対外援助と組み合わせた上で行われたのか？ 本研究は中国の総合的エネルギー・セキュリティを構成する重要なファクターである対アジア外交の「謎」を解き明かすため、「中国的 ODA」と資源外交の内実を解剖し、プラス・マイナスを問わずその真相を追及し国際社会に発信する。

(3)【継続探求の緊急性】 近年、「中国的 ODA」の規模はその国力・戦略に応じて拡大を続け、経済支援などを通じて東アフリカやインド洋と太平洋島嶼国の海の要衝に軍の恒常的な活動の拠点創りまで展開してきたが、国際社会はその種の援助外交への警戒を強めている。この意味で言えば、未だ現実性をもつ本研究課題の意義は緊要にしてかつ極めて大である。

2. 研究の目的

(1) 究極的に言うと、「中国的 ODA」は一つの発展途上国から他の発展途上国への、政治色の強い援助である。本研究はアジアにおけ

るレシピエント (被援助地域) への現地調査、対外援助の国際比較、データの解析を通して従来の政治外交史と国際関係論において見過されてきた中国外交の新しい一面を明らかにすると共に、「中国的 ODA」と日米諸国の ODA との異同・特性を浮かび上がらせる。

(2) 具体的に言うと次の諸問題を重点的に究明する。

中国の戦略的対外援助政策はどのような歴史的背景のもとに導入され、発展途上国との関わり合いのなかでどのように展開されてきたか、を系統的に解明する。

「中国的 ODA」の政策デザインはどのような政治過程を経て決断されたのか？ その政策立案にあたって中国の対外援助の基本理念とプロセスを詳細に解明する。

アジア域内のレシピエント (被援助地域) における「中国的 ODA」プロジェクトの建設・運営の実態と特徴を総合的にレビューし、プラス・マイナスを問わず被援助者・使用者の視点からその真実を追及する。その上で「中国的 ODA」の動向と行方を展望する。

3. 研究の方法

(1) 中国のアジア諸国への援助供与の目的は自身の国益に基づいており、外交的戦略、経済的・人道的関心など多岐にわたり、また各時代によっても変化しているが、本研究は軍事援助とその効果と記憶、外交戦略としての援助とその対価、資源外交とその反応、中国 (ドナー) とレシピエント間の政治外交等問題を中心的に考察する。そのため「現地」「現場」「現物」主義を取り、被援助プロジェクトごとに実地視察を行い、ドナー側の政府と企業、レシピエント側の地方政府と周辺住民などを対象に聞き取り、政府のプレスリリースした成果ではなく、実態に合った成果と問題を浮き彫りにする。

(2) 外務当局資料室、外交文書保管室、図書館などで文献資料や統計の収集を精力的に行い、最も信頼できるデータの蓄積を図る。

(3) 本研究は独創的な発想から発した政治学・国際関係学・経済学・歴史学・社会学、さらに博物館学まで跨る学際的な研究課題であり、国際開発協力研究の面においてもレシピエントの立場に立脚して新しい学問を追求しようとするものでもある。

4. 研究成果

(1) 本研究は現場主義に立脚したフィールドワークの成果に基づいてアジアにおける「中国的 ODA」と資源外交を明らかにするこ

とを目的としている。その中心課題は、個々のレシピエントにおける中国援助の実態を、シンボリック・ランドマック的なプロジェクトだけではなくごく一般的なプロジェクトも対象とし、現地調査によって解明することである。近年、研究者による中国対外援助の現地調査は多少実施されてきたが、政治学・国際関係学・経済学・社会学・博物館学に跨る学際的な方法を用いて歴史的視点に立った現地調査は未だ試みられていない。過去4年間の調査と研究で得た成果は次の通り上げることができる。

【データの蓄積】 先行研究や外交文書等一次史的資料については、外交史料館のほか、タイ外務省資料室、中国外交部档案馆、中国国家図書館、アメリカ国立公文書記録管理局(NARA)などに収録されているODAや資源獲得に関わる貴重な外交交渉資料を大量に蒐集し、分類・分析も進めている。その中には戦時・戦後におけるアメリカの対中華民国、対韓国、対日本、並びに他のアジア国の経済援助に関わる外交文書も含まれている。

【実態の把握】 フィールドワークについては、重点をレシピエント(被援助地域)に置き、まず隣国であるベトナム、タイ、モンゴル、ミャンマー連邦、続いて海の国であるマレーシア、インドネシアなどで実態調査を行った。同時に、施工企業への訪問、対外援助の一部を担うNGO担当者や現地の住民と学者への非公式なヒヤリングなどもできた。調査は中国が援助したシンボリックまたは一般的なプロジェクトであるモノレール、高速鉄道、橋、幹線道路、高速道路、総合病院、児童病院、国家体育館、スポーツセンター、国立シアター、学校、文化交流センター、高級住宅、政府用オフィスビルなど各分野に及んでいる。比較研究のため、可能な限り日本のODAプロジェクトも現地で見学した。ミャンマーやインドネシアなどで外国人の調査に警戒心が強く、安全を理由に一部の施工地域の立ち入りを許可しないこともあった。外事部門の事前許可なしの写真撮影はすべて不許可という環境の中で、記録を取る実態調査は緊張感を常に伴うものであった。

【社会への還元】 過去4年間、招聘講演、国際シンポジウム又は国際フォーラム、国際学会、日本国内の全国学会、市民講演会などの場で本研究の中間的な成果を中国語・英語・日本語で発表し、各国の研究者との学术交流を深めるとともに、社会にも積極的に還元している。今後は今まで積み上げた信頼できるデータの分析を精力的に進め、最終的には「中国的ODA」と資源外交を体系的に論じた高質な学術書として刊行したい。

(2)しかし、本研究は全て計画通りに進められてきたわけではない。フィリピン、東テ

イモール、スリランカ、中央アジア諸国への援助については、「一帯一路」をナショナルプロジェクトとして強力に推進している中国はアメリカ、日本など伝統ドナーと競い合う状態にあると言われ、実態調査の予定もあったが、国際情勢の不安やビザ取得の関係で実現できなかった。

(3)各年度のフィールドワークの詳細は下記の通り抜粋する。

2014年度 初年度の調査研究は中国の援助で注目を浴びているタイ王国から始まった。現地華僑華人団体の協力を得ながらダム、病院、鉄道、クラ地峡(Isthmus of Kra)の運河共同開発等プロジェクトの基礎データを蒐集し、プロジェクト展開のプロセス等を明らかにした。インドネシアのUdayana大学で行われた国際会議で、明石康氏司会のセッション「国際政治経済」にて、Southeast Asia's Reactions to Chinese-style ODAについて英語でプレゼンした。



バンコクにある中国文化センター
2015年3月 筆者撮影

2015年度 2年目の研究調査は中国の南・北に隣接するモンゴル国とベトナムで行われた。ウランバートル周辺では、中国の援助で造られた平和の橋、北京ストリート、国家体育館、スポーツスタジアム、通産省ビル、病院、高校、デパート、さらに日本側の支援で骨組み建築中の新空港などを実際に調査し、援助を受けたことについての現地住民の

認知度についても確認できた。ベトナム調査の際、ハノイのモノレール建設への期待と問題点、中越文化交流センター、高級住宅建設と地域住民とのトラブル、北江省に位置する中国烈士園の管理と運営について丹念に調べ、ソ連が援助したソ越文化センターや日本の無償資金協力で造られた Nhat Tan Bridge 等との比較も行い、中国の対越援助の具体像を把握した。



モンゴル最大の国家体育館
2015年8月筆者撮影



ベトナム北江省桃美郷にある中国烈士園
2015年12月筆者撮影

2016年度 3年目に入り、長い間課題だったミャンマー連邦における現地調査がやっと実現した。中国が援助したプロジェクトとして Yangon-Thanlyin Bridge (南アジアの最大の国道兼鉄道両用橋)、Myanmar National Stadium、National Theatre、開発を進んでいる Thilawa SZE などでの実態調査ができた。ヤンゴン国際大学副学長との会談、Japanese Hospital と称されるヤンゴン新総合病院への見学、中国現地企業への訪問、現地の方への非公式なヒヤリングなどもできた。同年、当該調査研究の一部を国際会議で発表し各国の研究者との議論を経てアジア開発の最後のフロンティアへの認識を深めた。



ミャンマーにある Yangon-Thanlyin Bridge
2017年3月筆者撮影

2017年度 一年間延長の結果、資源外交を積極的に推進している海の国インドネシアとマレーシアにおける現地調査ができた。ジャカルタ及び西ジャワ島にある蒸気発電所、Wuling 自動車新工場、中国・インドネシア経済貿易協力特区などでの調査が順調に進められていたが、主たる項目の一つであるジャカルタ - バンド (Jakarta-Bandung) 高速鉄道プロジェクトは軍事区域内にあるため、厳重に警備され、現場への立ち入りが許可されなかった。関連工事が進んでいないことを現地の方への非公式なヒヤリングを通して分かった。強い経済力をもつ華僑華人の多いマレーシアは中国の海上シルクロードで最重要協力国として位置づけられている。壮大な TRX (Tun Razak Exchange) 計画の中の金融センターになる Signature Tower、クアラルンプールの象徴である Twin Tower と並ぶ Four Seasons、マレー半島部のタイ国境から南シナ海に沿って東海岸を走りマラッカ海峡に通じる「東海岸鉄道計画」などを現地を確認した。多くの工事が予定より遅れていたが、中国による援助プロジェクトのいずれもが現地で良く知られていることが調査で分かった。上記の調査を踏まえ、その成果の一部を「中国の対外援助：東南アジアの現場から考える」をテーマに学会で報告した。



西ジャワ島にある蒸気発電所
2017年7月筆者撮影



建設中のKL's Global Financial City
である Signature Tower
2018年2月筆者撮影

(5) 上記各国での現地調査の実施に際しては、多くの通訳・友人・コーディネーターより多大のご協力を賜った。また、各国の歴史に詳しい学者からは当該地域の経済・民俗・民衆生活についてご教示を得た。この場を借りて心から謝意を表す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

李 恩民「中国的ODA」の展開： レシピエントの視点、SGRA レポート(関口グローバル研究会編『日中韓の国際開発協力 新たなアジア型モデルの模索』)、査読あり、No.80、2017、6-18
file:///C:/Users/User/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/YSLOKDOY/Report80light.pdf

〔学会発表〕(計 5 件)

李恩民「中国の対外援助： 東南アジアの現場から考える」2017年10月21日、アジア政経学会2017年秋季大会、富山大学にて。

李恩民「“中国的ODA”の展開： レシピエントの視点」2016年12月1~2日、東アジア日本研究者協議会第1回学術大会、韓国仁川松島コンベンシアにて。

李恩民「ウィン・ウィン協力関係？隣国に対する中国の援助」2016年9月29日~10月3日、第3回アジア未来会議「環境と共生」、北九州市立大学にて。

李恩民「中日两国对周边国家的援助比较」(招待講演)2016年6月25~30日、中国天津南開大学日本研究院にて

LI Enmin, "Between Hope and Fear: Southeast Asia's Reactions to Chinese-style ODA," The Second Asia Future Conference, Udayana University, Bali, Indonesia, August 22-24, 2014.

〔図書〕(計 2 件)

劉 傑・川島真編、社会科学文献出版社(北京)『対立と共存の歴史認識： 日中関係150年』、2015年、501頁

李恩民「周恩来と日本：人際関係の形成対日外交の展開」 pp. 335-373

黄自進主編、中央研究院人文社会科学研究中心(台北)『日本政府的兩岸政策』、2015年、329頁

李恩民「聯合國中心主義與日本政府的兩岸政策」 pp.91-122

6. 研究組織

(1) 研究代表者

李 恩民 (LI, Enmin)

桜美林大学・人文学系・教授

研究者番号：90372911